

「こども食堂」は地域とつながり、地域の役に立ちたいという想いで始めました。こどもはもちろん、働く保護者の方も安心して過ごし、あたにかいごはんを食べられる場として利用していただきたいと思っています。

コロナ禍では弁当配布を始めました。コロナが明け、通常どおり食堂形式のみに戻す

ことも考えましたが、家でゆっくり過ごしたい家族や家から出ることが難しい人のニーズに配慮するため、食堂と弁当配布の各日を設けることにしました。

こども一人でも、家族でも皆さんが安心して気軽に利用してもらるように、こども食堂を続けていきたいです。



こども食堂



「にこにこひろば」は、今年7月から始めました。ここでは、宿題や遊びなど、好きなことをして過ごしています。

また、施設の利用者さんや施設で働く外国人職員と交流することもあり、**多世代・多国籍交流の場**にもなっています。利用者さんには、こどもが好きな方や元教員の方もいらっしゃるの、宿題を教えてもらったり、ハローニカを教えてもらったりする子もいます。

核家族化で、高齢者と過ごす機会があまりないお子さんも増えるなか、**交流の中でおもしろい化学反応が生まれる**こともあります。利用者さんもこどもと過ごす機会が少ないため、「にこにこひろば」の時間を楽しみにしています。

共働きの家庭も増えているので、**安心して過ごせる居場所として利用してもらいたい**です。そして、こどもたちに「福祉」のことを身近に感じてもらうため、楽しいですね。



▲ この日は施設の利用者さんと数独に挑戦！

にこにこひろば

こどもの居場所づくり

地域のこどもたちが楽しく過ごす居場所づくり

開成町にサポートオフィスを構え、町内で福祉サービス等を提供している社会福祉法人一燈会では、ヤングケアラー等の家庭状況に関わらず、地域のすべてのこどもたちが楽しく過ごすための居場所づくりに取り組んでいます。

今回は、同法人サウスマークの石川施設長にその取組を紹介してもらいました。

2つの活動を紹介します！



社会福祉法人 一燈会
サウスマーク
いしかわ ゆういちろう
石川 裕一郎 施設長

社会福祉法人一燈会の場合

こころの居場所づくり

周りにヤングケアラーだと思われる人がいた場合、私たちに何ができるのでしょうか？

もし、あなたの大切なお友だちが悩みや辛い気持ちを打ち明けてくれたら、まずは、そのお話を聞いてあげてください。勇気をだしてあなたにお話してくれたのかもしれない。

きっと、お話を寄り添って聞いてもらうだけでも、そのお友だちの気持ちは少し楽になると思います。

そして、「学校は楽しい？」など日常会話から声かけをすることで「こころの居場所」ができると思います。



みずの さほか
こども課 水野 咲穂香

ヤングケアラーのことも相談できる場所

- 担任の先生、保健室の先生、スクールカウンセラーなど
- 町こども課（こども家庭センター）
☎84-0327
- かながわヤングケアラー等相談 LINE



あなたが相談しやすいところに相談してみよう

- かながわケアラー電話相談
☎045-212-0581



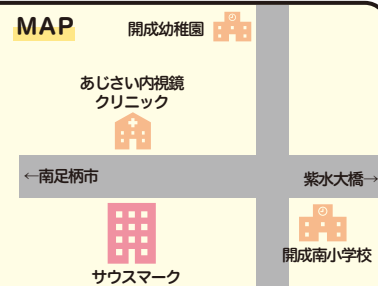
こども食堂

第1・第3日曜日 11時～12時
(第1日曜日は食堂形式、第3日曜日は弁当配布)
こども：無料、大人：300円(30食限定)

どちらも、サウスマーク（開成町みなみ5-5-10）1階で開催。予約不要。
問合せ：サウスマーク ☎85-0281

にこにこひろば

毎週水曜日 14時30分～17時



◀こどもの居場所づくりはP13もチェック